

反対同盟との労農連帯を一層強め

三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう

二・一〇臨時地本大会は、革マル派と一部反動分子による動労運動の変質と私物化、千葉地本排除策動を断じて許さず、闘う動労の伝統を守り、正しく発展させる方向を明らかにし、全国四万七千組合員が、共にこの動労を大改革する運動に総決起することを訴えたのである。

そして、このわが千葉地本一四〇〇組合員の一人となった総決起と断固たる宣言は、全国で苦闘する心ある組合員・活動家の心を確実に揺り動かしている。

同時に、千葉地本への排除・破壊攻撃を策動する革マル派とそれに追いつく一部反動分子に痛打をあげせ、後退をよぎなくさせている。

従って、われわれは、この二・一〇臨時地本大会で高らかに宣言した『真に闘う動労の方針』をより広く、より強く、より多くの労働者・農民・学生・住民・市民に明らかにし、われわれの隊列に結集することを訴え続けなければならない。

「なぜ、「一線を画す」方針を

公然と批判し、拒否するのか」

第一に、われわれは階級的・戦闘的に闘う労働者として、一三年間、一貫して権力と闘い続ける反対同盟農民を絶対に裏切ることには出来ないというものである。

千葉地本一四〇〇組合員は、この間の三里塚・ジェット闘争をこの立場から真剣に闘い抜いてきた。

しかし、革マル派とそれに追いつく一部反動分子は、反対同盟農民の闘いに対し、「労働運動とは全く無縁だ」あるいは、反対同盟幹部に対しては、「権力のスパイ」などとあらん限りの罵り雑言をなげつけ、「反対同盟と一線を画す」方針を岡山大会に持ち込み大会代議員の三分の一以上の反対をテロ・リンチ、暴力のファッショ的議事運営をもって強行した。

従って、われわれは、こうした革マル派と一部反動分子との千葉地本と三里塚反対同盟の共闘を破壊し、もって三里塚闘争に敵対し、権力に加担する「一線を画す」方針をきっぱりと拒否する。

第二に、反対同盟との連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹することの中にこそ、八〇年代を闘う労働組合運動の未来があること。

わが千葉地本は、この間の三里塚・ジェット闘争を断固闘い抜くことを通して、労農連帯を強め、全国の闘う仲間との連帯をかちとってきた。

そして、この三里塚・ジェット闘争は、反合、運動保安確立、組織破壊攻撃紛砕の闘いとして、四つの視点をもって闘ったがゆえに、権力に介入の口実を与えず、かつてない強固な組織力をかちとることも出来たのである。

従って、激動の八〇年代を闘う動労運動の真に闘う方向性は、「三里塚敵対」「水本運動推進」「貨物安定宣言」「暴力的ファッショ的組合支配」の路線にあるのではなく、明確にわが千葉地本第三二回臨時大会が宣言し、打ち出した「労農連帯・三里塚・ジェット闘争貫徹」「水本脱会」「貨物安定宣言廃棄」「動労の戦闘的・民主的発展」の路線の中にこそあることをしっかりとつかみとらなければならない。

「確信をもって

闘いの先頭に立つ」

われわれは、二・一〇臨時地本大会が決定した闘う動労の方向性「路線を堅持し抜くであろう。一四〇〇名組合員・家族は、確信をもって全国四万七千組合員に対し、今こそこのわれわれの動労大改革運動に大合流し共に総決起することを訴え、その最先頭で闘い抜くのではないか。

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう！

闘う路線の貫徹が それとも屈服と変質の道か

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！